

「校舎内の大きなクモ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



校舎内で捕獲した「大きなクモ」は、ビンの中でも特に暴れる様子もない。蓋を開けて撮影している時も、この脚の長さなら、逃げようと思えば逃げられるだろうに、逃げようとしなかった。



私は、自然な光線を当てて撮影しようと思い、瓶を屋外に持ち出した。上から見ると「不気味な顔」に見えるが、これは「顔」ではなく、実は頭部の模様のようなのだ。

拡大して見ると、まるで「妖怪」か「ドクロ」のようだ。私は「大きなクモ ドクロのような模様」と検索してみた。するとすぐに多数ヒットして「アシダカグモ」という種類だとわかった。「足高蜘蛛」(正確には「脚高蜘蛛」という意味で、確かに脚が異常に長い。少なくとも毒は持っていないようで安心した。



「アシダカグモ」*Heteropoda venatoria* は、アシダカグモ科に属する。「クモの巣」を造らない「徘徊性のクモ」で、通常は民家の屋内に生息しているらしい。非常に身近なクモなので、「イエグモ」「盗人グモ」「ヤツデコブ」など、さまざまな異名が存在する。

クモとしては大きな体と、ドクロのような不気味な面相から、ヒトに発見されると、速攻で駆除されてしまうことが多い。しかし実はこのアシダカグモ、「生粋の益虫」で、駆除しないほうが良いクモなのだ。

網巣を造らないアシダカグモは、夜になると壁、天井、床などに脚を広げて「獲物」を待ち構える。「獲物」とは家屋内にいる昆虫類(ハエや蚊)などだ。特に好むのが「ゴキブリ」だという。ゴキブリを見つけると、ほぼ百発百中で仕留めるというから頼もしい。それなら、アシダカグモを大量に人工繁殖させて、家中に放っておけば良さそうだが、そう簡単にはいかないようだ。アシダカグモは「縄張り意識」が非常に強く、「1部屋に1個体」しか生息できないのだそうだ。



校舎内に残すと、子どもたちが大騒ぎしそうなので、とりあえず屋外に放した。しかし、屋外では環境が違い過ぎて、生きていけないかも知れない。